

# 仙石秀久・忠政と佐久

## 初代小諸藩主 仙石秀久

仙石氏中興の祖といわれる仙石秀久は室町時代天文20年1551仙石治兵衛久盛の子として美濃国加茂郡黒岩（現岐阜県賀茂郡坂祝）に生まれたという。仙石治兵衛久盛は美濃国守護大名であった土岐氏に仕えていたと伝える。仙石氏は土岐氏の支流であるともいうが、いずれにしても土岐氏配下の一小土豪であったものであろう。

室町時代永禄7年1564仙石秀久は14才となり、美濃攻略を進めていた織田信長に臣従し、木下（豊臣）秀吉の部下に配属されている。本能寺の変による織田信長の死後、豊臣秀吉が天下の主導権を握るに及んで安土桃山時代天正11年1583淡路国（淡路島）を与えられ、洲本城主に、さらに天正13年1585には讃岐国（香川県）を与えられ、高松城主に転じている。いずれもその地の平定戦における武功が認められてのものという。ところが天正14年1586豊臣秀吉による九州島津攻め先遣隊として出陣していた仙石秀久は島津軍の挑発に乗って、その大軍と戦い惨敗、豊臣秀吉の怒りを買って所領を没収されてしまう。しかし天正18年1590豊臣秀吉の小田原征伐で浪人仙石秀久は徳川家康口添えて陣借りを得て従軍が叶う。「鈴鳴り武者」の異名を取る程の武功を挙げ、豊臣秀吉に謁見、許し得る。改めて信濃国佐久郡（現長野県小諸市、佐久市、南佐久郡、北佐久郡一円）を与えられ、小諸城主になったのである。仙石秀久は伏見城において大盗賊石川五右衛門を捕らえた伝説が有名であるが、その賞として豊臣秀吉より拝領した名器「千鳥の香炉」は明治5年1872皇室に献納されたという。

※仙石秀久は初め権兵衛と称し、諱（実名）は初め秀久、天正18年1590頃秀康と名乗り、慶長2年15977月盛長と改め、更に秀久に戻る。姓も初めは千石としたものが多いが、慶長初年1596以降、ほぼ仙石に統一する。

### 仙石秀久の佐久郡支配

仙石秀久・忠政の2代にわたる時期は小諸城の拡張・修築、城下町づくり、戦国争乱により荒廃した農村の復興が図られるなど佐久における近世封建制の基礎が築かれた。小諸城は戦国時代前期よりあったが、仙石秀久はそれに大改修を加え、近世城郭として完成。殖産振興にも力を注ぎ、浅間山麓で採れた蕎麦を、現在のような蕎麦切りの形にして領民に振る舞い、これを特産品にした。宝永3年1706仙石家は但馬国出石藩（現兵庫県豊岡市出石町）の松平家と国替となるが、名物「出石皿蕎麦」は仙石家により信州から伝えられた。

□天正18年1590 信濃國小諸5万石の大名に復活

□天正18年1590 12月10日 松原大明神に御渡が本年は3度もあったので、9貫文の地を寄進

□天正19年1591 1月19日 小諸城に初めて入部

□天正19年1591 1月28日 領内の村長等を小諸城内に召し出して、手ずから扇子を銘々に与えた

□文禄元年1592 小県郡長昌寺（佐久郡安原安養寺末寺）へ什物を寄付、大黒天立像の木製米俵底面に墨書

□文禄年間1592-1596 推定 代官川田平四郎 志賀湖干拓（50貫文の地が新たに出来たので、集落名を五十貫に）

□文禄3年1594 2月19日 岩村田龍雲寺門前の地の諸役を免ずる

□慶長元年1596 小諸城下大手門近くに鎮守鹿島の祠を造立、太鼓1口を奉納

□慶長3年1598 4月2日 岩村田龍雲寺に100貫文の地を寄進、御縁仏を贈られたことを謝す

□慶長4年1599 3月1日 岩村田龍雲寺に100貫文の地を安原村の内で寄進

□年次不詳10月12日 岩村田龍雲寺に勅命によって指令を発す

□年次不詳3月14日 小諸城中に植える木を領内より求めるのに際し、岩村田龍雲寺境内を免ずる

□年次不詳3月14日 小諸城中に植える木を領内より求めるのに際し、安原安養寺境内を免ずる

□慶長5年1600 7月6日 仙石秀久軍に従軍する臼田井出才蔵の子、井出善三郎に米100俵を与える

□慶長5年1600 関ヶ原に向かう徳川秀忠軍を追分宿まで出迎え、小諸城に招く

※仙石秀久は三男忠政と共に東軍に加わり、徳川勢の一員として上田城攻撃に加わる

□慶長6年1601 小諸城大手門の屋根を瓦葺

□慶長7年1602 小諸藩に赤松が下付され、中山道笠取峠に松並木を植栽

□慶長8年1603 初代小諸藩主。幕命により中山道に一里塚を築く

□慶長9年1604 9月6日 臼田井出善三郎に知行として小宮山組の内100貫文の地を与える

□慶長10年1605 小諸中沢川の水を成就寺横で分水。小諸城内まで用水路を設け、二の丸に水槽を築く

□慶長11年1606 出沢久三郎に知行として長土呂村の内100貫文の地を与える

□慶長11年1606 川原田新七に知行として長土呂村の内100貫文の地を与える

□慶長12年1607 4月16日 耳取村高橋源介に知行として平賀の内100貫文の地を与える

□慶長13年1608 3月15日 望月にあった八幡社を小諸城下に移す

□慶長14年1609 中沢忠三郎に知行として平賀の内100貫文の地を与える

□慶長14年1609 2月19日 小諸鹿島神社に粍30俵の地を寄進

□慶長14年1609 5月19日 内山正安寺中における狼藉と正安寺山林竹木を切り取ることを禁ず

□慶長15年1610 1月23日 耳取菊太郎に3,050貫文の地を与える ※佐久一群逃散のピーク

□慶長15年1610 2月9日 臼田井出善三郎に入布施の内100貫文の地を給付

□慶長15年1610 2月9日 軽井沢佐藤織部に発地の内100貫文の地を給付

□慶長17年1612 小諸城大手門完成、三の門に楼門を造る

□慶長17年1612 3月24日 家臣に南・北相木、小海の鷹見に扶持米を給付するよう指示

□慶長17年1612 6月18日 岩村田若宮八幡社に神事料として粍5俵を寄進

□慶長17年1612 10月20日 重臣山浦少蔵 野沢村庄屋等に佐久甲州街道普請への動員人足数を通達

（動員人足数：野沢組78人、臼田・入沢組97人、相木・川上組39人、田野口組72人、春日組324人 計310人）

□慶長18年1613 野沢組 野沢兵左衛門、鍛冶屋扇右衛門、高柳与左衛門らに扶持米として各10俵ずつ支給

□慶長18年1613 鷲見九一郎に知行として平賀の内130貫文の地を与える

□慶長18年1613 3月21日 岩村田若宮八幡社の社人に知行として米200俵を与える

□年次不詳 2月16日 岩村田若宮八幡社の社人に米10俵を寄進、病氣平癒を祈願させる

□慶長18年1613 6月17日 岩村田祇園社に祇園会神事料として粍5俵を寄進

□慶長19年1614 5月6日 江戸（上屋敷 桜田）より小諸への帰途、武蔵国鴻巣で病死、享年64才

### 仙石秀久 墓・位牌

#### 【仙石秀久墓】

上田諏訪部「芳泉寺」※宝仙寺から移す 埼玉鴻巣「勝願寺」※分骨

小諸歎喜院「宝仙寺」※芳泉寺 前身

□文禄2年1593 秀久 小諸城下荒町（現光岳寺）に松井歎喜院を移し、宝仙寺と改称。仙石氏菩提所

岩村田「西念寺」※六男仙石政直墓、位牌「法台院殿翁誉廓樹大禅定門」、遺品（菓子器、楽焼茶碗、茶壺）

根岸糠尾「大徳寺」※秀久夫妻 五輪供養塔

□永禄6年1563 貞祥寺三世松山龍鶴禅師が龍泉院と共に隠居寺として建立

□慶長3年1598 秀久 開基

□元和8年1622 忠政 寄進 ※本寺僧 大翁芳達が再建、中興開山

□弘化2年1845 5月5日 仙石家法事、奥方奉納「打敷（寺院高座、仏壇・仏具等敷物）」

## 【仙石秀久位牌】

大沢地家「龍泉院」

- 永禄6年 1563 貞祥寺三世松山龍鶴禅師が大徳寺と共に隠居寺として建立
- 慶長3年 1568 秀久 龍鶴禅師に隠居免として寺領 30 貫文を与える
- 慶長8年 1603 秀久家臣柏木采女正名 山屋敷、門前屋敷、八幡仏具免として田一保町を与える
- 慶長12年 1607 六世才庵雲芸禅師 本格的な寺として建立、中興開山
- 慶長12年 1607 秀久家臣武者又左衛門（道心名常円） 龍泉院創建に大きく貢献
- 慶長12年 1607 秀久 鎮守八幡宮を建立、仙石家武運長久の祈願寺、以降、開基となる（寺境内を免税地とし、大門下の新田 2 反歩、保町を寄付）

## 二代小諸藩主 仙石忠政

仙石忠政は仙石秀久三男として天正6年 1578 に生まれる。慶長5年 1600 父秀久と共に東軍に加わる。慶長19年 1614 亡父秀久の遺領を継ぎ、小諸藩主となる。慶長19年 1614 大坂冬の陣に従軍。慶長20年 1615 大坂夏の陣に従軍。元和8年 1622 1 万石加増され、6 万石をもって上田に移封。嘉永3年 1622 上田城大改修にとりかかった。寛永5年 1628 上田城大改修の完成前に病没。享年 51 才。

※忠政の諱（実名）は初め久政と称し、慶長5年 1600 父秀久と同じく徳川勢の一員として上田城攻撃に加わり、その功により徳川秀忠に忠の字を拝領して忠政と改め、従五位下兵部太輔(ひょうぶだゆう)に叙任している。

### 仙石忠政の佐久郡支配

□慶長19年 1614 父仙石秀久の死により家督を相続し、忠政は佐久郡を改めて拝領した、小諸領襲封

□慶長19年 1614 7月20日 駿府から国元の家臣酒匂清兵衛、恵崎又左衛門宛に書状を出す

□慶長19年 1614 9月14日 野沢村庄屋並びに長百姓宛に当年の貢納について指示を出す

□慶長19年 1591 10月14日、17日 大坂冬・夏の陣に徳川方の一員として出兵にあたり、それに従軍する者への米を貸与するので、渡すよう書状を出す

□慶長20年 1615 1月26日 仙石久清（忠政弟）恵崎又左衛門 旧芦田氏家臣丸山内匠助宛に書状を出す

□慶長20年 1615 6月13日 仙石久清 恵崎又左衛門 岩村田祇園社に祇園会祭事料を寄進

□慶長20年 1615 7月16日 仙石久清 恵崎又左衛門 岩村田若宮八幡社に祭料を寄進

□元和元年 1615 佐久郡における貫高制を石高制に切替

□元和2年 1616 7月13日 布施熊野神社神主宮内卿に書状を出す

□元和4年 1618 9月3日 下塚原村に元和4年分年貢を定めて通告

□年次不詳 6月27日 新海神社神官山宮祢宜に五明（扇）と神符を贈られたことへの御礼

□元和8年 1622 幕命により上田移封

□寛永5年 1628 病没、享年 51 才

### 仙石忠政 墓・位牌

【仙石忠政墓】江戸高輪「東禅寺」

【仙石忠政位牌】上田新田「大輪寺」

- 貞享元年 1684 仙石政明（忠政曾孫）奉納 位牌「法光院殿天庵宗智大禅定門神儀」

## 家臣 小林重範 重秀

□天正3年 1575 5月21日小林五郎左衛門尉盛重（開基）は武田氏に仕えて長篠の戦いで戦死

□小林盛重の子小林重範、孫小林重秀は共に仙石氏に仕えた。

□慶長13年 1608 秀久 小林重秀に知行として平賀の内 100 貫文の地を与える

□元和5年 1619 忠政 小林重秀に知行として前田原の内 200 石を与える

□元和8年 1622 忠政 上田移封後、小林重秀も従い、上田に移る

□寛永2年 1625 忠政 小林重秀に知行として加増

□小林重秀の長男はその後も仙石氏に仕えた

□小林重秀の二男以下は皆佐久に留まり、下中込村の宗家を継ぎ、また分家に出た

※佐久市中込石神に所在する中込山小林寺境内に開基小林盛重等石碑が建立

## 重臣 恵崎又左衛門

仙石秀久の治世末期から仙石忠政時代にかけて民政の中心にいた重臣。仙石忠政時代の元和年間（1615-1624）小諸に在城した家臣の分限帳に当時の分限で 300 石取りの恵崎又左衛門が載る。恵崎又左衛門は大沢に居住した武者氏の出身、その一族で後に恵崎と改姓した武者又左衛門は 300 石とされ、代官を務めた。仙石忠政が上田移封後もこれに従い上田に移り、佐久を去った。恵崎家は又左衛門のおかげで江戸時代を通じて仙石家重臣であった。

□文禄2年 1593 秀久 武者又左衛門に茂田井・大沢の内加増を含め 100 貫文を与える

□慶長2年 1597 秀久 武者又左衛門に加増

□慶長5年 1600 8月11日 秀久 恵崎又左衛門に印判状を発す（三枝昌吉が放った偵察者を崎田村で討ち取ったことを褒める）

□慶長5年 1600 10月23日 秀久 恵崎又左衛門に印判状を発す（井伊直政の雇った偵察者を湯原村で捕縛し使者に引き渡したことを褒める）

□元和4年 1618 忠政 恵崎又左衛門に知行として根々井塚原村の内 200 石を与える

□元和7年 1624 忠政 恵崎又左衛門に加増知行として塚原新町 50 石、根々井本郷 50 石、計 100 石を与える

□寛永元年 1624／寛永2年 1625 恵崎又左衛門 上田移封後に年貢割付状の署名

□寛永2年 1625 忠政 恵崎又左衛門に加増知行として 50 石を与える

□寛永3年 1626 忠政 恵崎又左衛門に支配知行として 300 石を与える

□明暦元年 1655 11月3日 上田諏訪部芳泉寺墓碑

「為勇誉一山居士也 恵崎又左衛門尉吉久 孝子敬白」と刻む

【主要参考文献】「仙石氏史料集」編集上田市立博物館 昭和 59 年 10 月発行／「初代小諸藩主仙石秀久物語」城下町にぎわい協議会 小諸市観光協会 北国街道 小諸宿の会／特別展ハッケン！上田の仏像 編集上田の仏教美術展実行委員会 令和7年1月発行／「佐久市志歴史編（三）近世」編纂佐久市志編纂委員会 平成4年3月／「大澤村の歴史」発行大沢地区文化財保存会 昭和 62 年 8 月発行／「続大澤村の歴史」発行大沢地区文化財保存会 平成 5 年 3 月発行／「しなの歴史発見」長野県立歴史館村石正文献資料課長 令和 5 年 5 月 12 日付信濃毎日新聞／「中込山小林寺」資料

【作成】佐久広域連合事務局長 武者泰雄（佐久市取出町 183 番地）【発行】 令和 7 年 11 月 6 日

